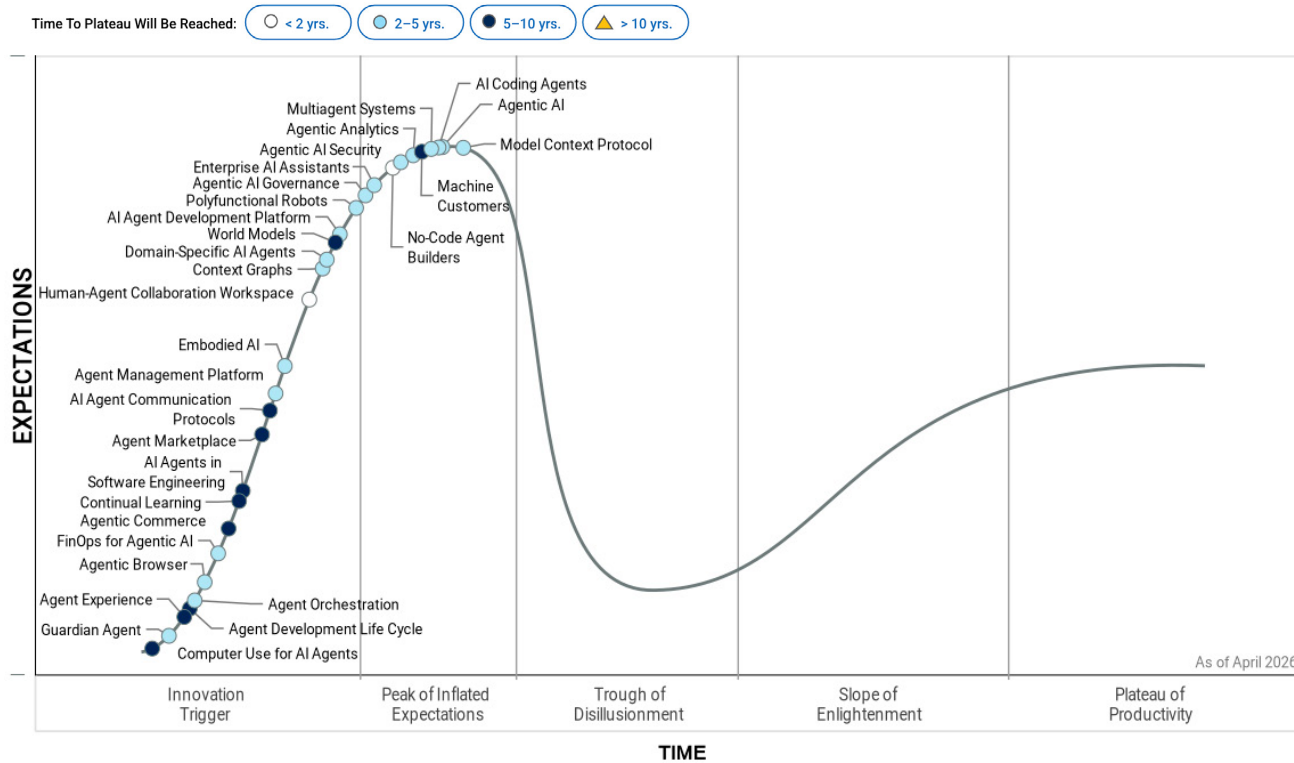




抜粋版

注目すべきテクノロジーを見極める
Gartner ハイプ・サイクル 3 選

エージェント型 AI のハイブ・サイクル



このハイブ・サイクルについて

エージェント型 AI は、さまざまな分野で強力な自動化を実現する可能性を秘めており、非常に高い関心と多額の投資を集めています。しかし、エージェント型 AI の急速な発展以上に過度な期待や混乱が広がっているのが実態です。ビジネス価値を実現し、誤った判断を避けるためには、中核となるイノベーションとその進捗状況を正しく把握することが不可欠です。

Gartner の主な 3 つの見解

1. AI エージェントの導入

これまでに AI エージェントを導入した組織はわずか 17% ですが、42% が今後 12 カ月以内に、さらに 22% がその次の 1 年以内に導入する予定です。焦点は依然として漸進的な自動化にあり、まだ変革を起こす変化には至っていません。

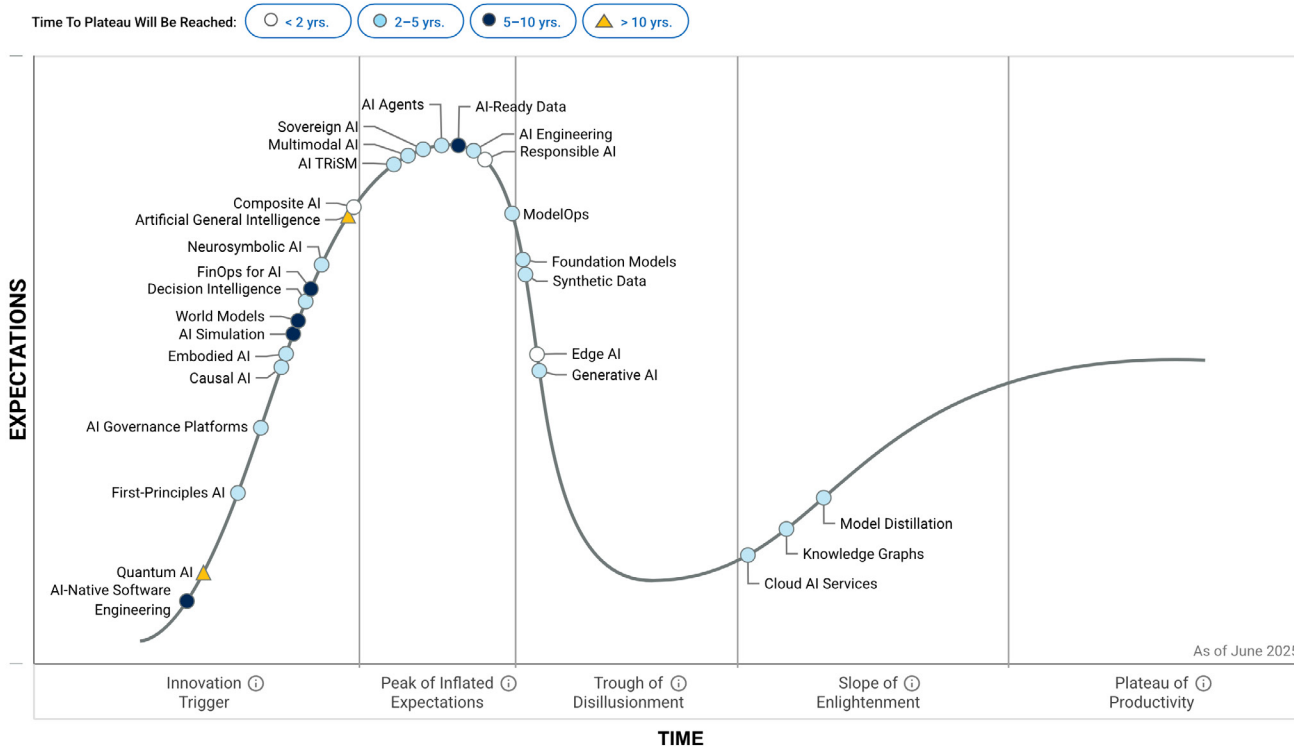
2. 半自律型の導入・展開

実際には、完全自律型のエージェントはほとんどの企業のユースケースにはまだ対応できず、人間による監督が不可欠です。AI エージェントの作業に対して一定の人間の監督が伴う半自律的な導入こそが、企業が計画すべき現実的なアプローチです。

3. エージェント・ウォッシング (見掛け倒しのエージェント)

「エージェント・ウォッシング」は、従来の自動化ツールや RPA ソリューションが AI エージェント構築プラットフォームとしてリブランドされている現象です。このような動きによって市場はさらに混迷し、購入者が本物のエージェント型 AI の機能と、新しい用語で装飾された従来型の自動化テクノロジーを区別することを一段と難しくしています。

人工知能のハイブ・サイクル：2025 年



出典：Gartner

このハイブ・サイクルについて

人工知能 (AI) への投資は依然として堅調ですが、焦点は生成 AI から、AI-Ready データ、AI エージェント、AI エンジニアリング、ModelOps のような基盤となるイノベーションへと移行しつつあります。このリサーチは、リーダーが規制面の複雑さや運用拡大の課題に対処しつつ、影響度の高い先進的な AI 手法に優先的に取り組むのに役立ちます。

Gartner の主な 3 つの見解

1. AI エージェントについて

2029 年までに、企業におけるエージェント型 AI イニシアティブの 70% 超は失敗に終わるでしょう。その背景には、エージェント・ウォッシングの蔓延に加え、ユースケースの最適化、ユーザーのリスク許容度、コンプライアンス/監査要件の重要性が見落とされることがあります。

2. 生成 AI とエージェント型 AI の基盤

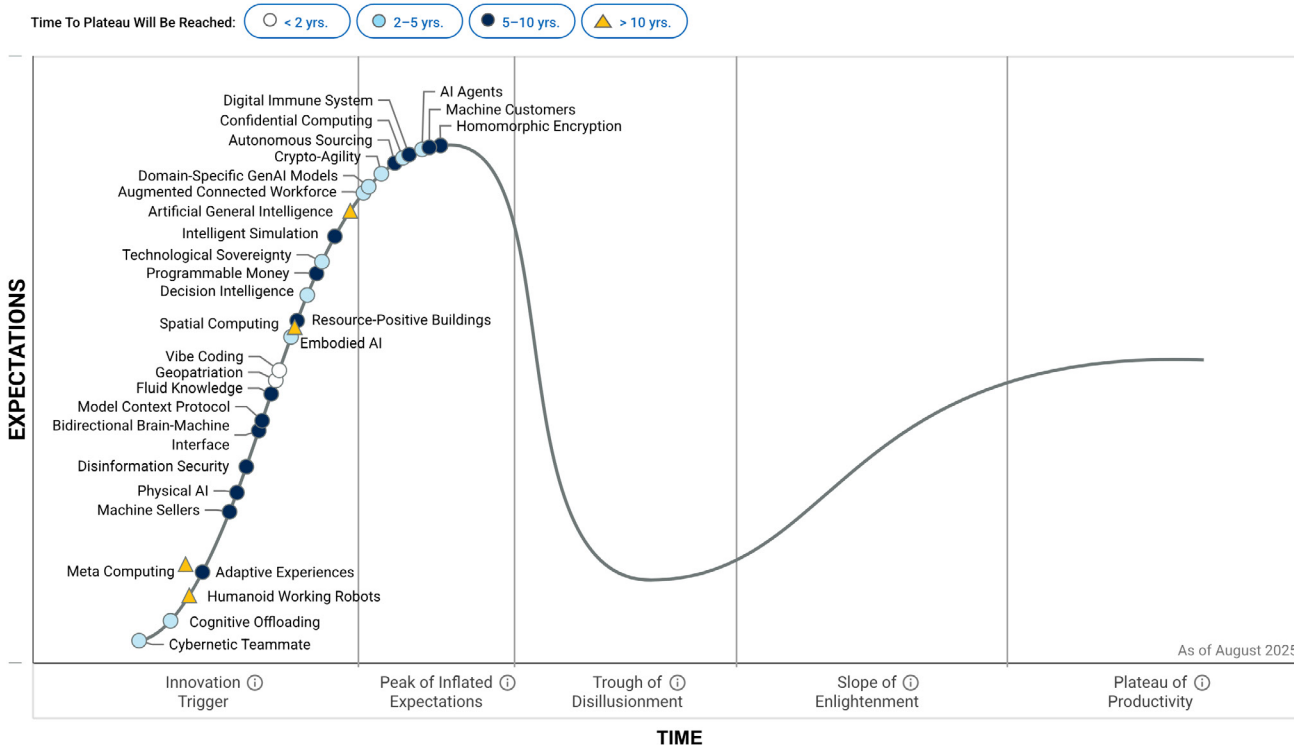
生成 AI では、スピードが速いほど、その土台の強さや弱さが増幅されます。つまり、AI-Ready データや強固な AI エンジニアリングといった基盤がなければ、価値創出よりも速く、脆弱性が拡大します。

生成 AI やエージェント型 AI に適した AI-Ready データを準備するには、データ管理、アーキテクチャ、プラットフォーム、スキル、プロセスを早急に進化させる必要があります。

3. AI と人材

AI は雇用を消滅させるのではなく、雇用に混乱をもたらします。2028 ~ 2029 年以降、AI が創出する雇用は、AI によって失われる雇用を上回るようになります。一方で、年間 3,200 万以上の職務が大きく変化すると見られています。

先進テクノロジーのハイブ・サイクル：2025 年



このハイブ・サイクルについて

Gartner は、社会と企業のあり方にますます大きな影響を及ぼす 30 の先進テクノロジーを特定し、4 つのテーマに分類しました。

Gartner の主な 3 つの見解

1. マシン・カスタマー

2030 年までに、B2B 領域で、顧客として機能するインターネット接続マシンは、2025 年の 30 億台から増加し、80 億台に達するでしょう。

マシンが契約交渉や部品調達、多額の予算管理を自律的に行う中、企業には、ユーザー・インタフェース中心の発想から、マシン間商取引を前提とした発想への転換が求められます。ロイヤリティと信頼は、自律型ビジネスに欠かせない、計画／開発／最適化が可能な要素へと変化します。

2. インテリジェント・シミュレーションと意思決定インテリジェンス

2030 年までに、インテリジェント・シミュレーションを使用する企業の 50% は、10 億ドルを超えるコスト削減または新規売上を達成するでしょう。

コンポジット AI インフラストラクチャを基盤に、AI はインサイトを実行可能な成果へ直接変換しつつあります。

3. 拡張コネクテッド・ワークフォースとサイバネティック（人工頭脳）のチームメイト

2030 年までに、行動の AI モデリングは、AI 活用成熟度の高い部門の半数で、標準的な企業慣行となるでしょう。

AI は人間にとって新しい、場合によっては最も有能なチームメイトになります。人間と AI の協働チームを構築し、それぞれの強みを生かすために、チーム全体を測定・評価することが重要になります。

実用的で客観的なインサイト

成功に向けて活用できる無料リソース／ツールをご紹介します。

eBook

データ／アナリティクス／AIで
着実なビジネス成果を実現する

ビジネス成果を創出するためのデータ／
アナリティクス／AIのロードマップを、
実践的なステージとアクションで解説します。

今すぐダウンロード



eBook

2026年の戦略的テクノロジーの
トップ・トレンド

2026年とその先、IT戦略とビジネスモデルを
大きく変えるテクノロジー・トレンドを解説します。

今すぐダウンロード



Webinar

成果につながるAIユースケースとは
何か？投資判断と価値測定の考え方

AI FinOpsの考え方を活用し、投資モデル、
コストの可視化、価値測定を行いながら、
全社規模でAI投資対効果を継続的に管理・
最適化するためのプロセスを解説します。

今すぐ視聴



Webinar

AI成功の成否を分けるのは、
テクノロジーではなく「人材」

AIに対する期待や懸念が先行するなか、いま
組織で実際に起きている変化を解説します。

今すぐ視聴



Gartnerのお客様は、クライアント・ポータルでさらに多くのリソースをご利用いただけます。[ログイン](#) ↗

Connect With Us

Gartner は、経営幹部およびそのチームに対し、実行可能かつ客観的なビジネスおよびテクノロジーのインサイトを提供します。Gartner のエキスパートによるガイダンスやツールは、組織の重要な課題について、迅速で優れた意思決定と大きな成果の創出を可能にします。

[Gartner のサービスに関するお問い合わせ](#)

最新のインサイトをご確認ください



[Gartner のコンファレンスにご参加ください](#)
[コンファレンスの最新情報を見る](#)

© 2026 Gartner, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved. Gartner is a registered trademark of Gartner, Inc. and its affiliates. This publication may not be reproduced or distributed in any form without Gartner's prior written permission. It consists of the opinions of Gartner's business and technology insights organization, which should not be construed as statements of fact. While the information contained in this publication has been obtained from sources believed to be reliable, Gartner disclaims all warranties as to the accuracy, completeness, or adequacy of such information. Although Gartner publications may address legal and financial issues, Gartner does not provide legal or investment advice and its research should not be construed or used as such. Your access and use of this publication are governed by the [Gartner Usage Policy](#). Gartner prides itself on its reputation for independence and objectivity. Its research is produced independently by its business and technology insights organization without input or influence from any third party. For further information, see "[Guiding Principles on Independence and Objectivity](#)." Gartner insights may not be used as input into or for the training or development of generative artificial intelligence, machine learning, algorithms, software, or related technologies. 4625600_JP

Gartner®